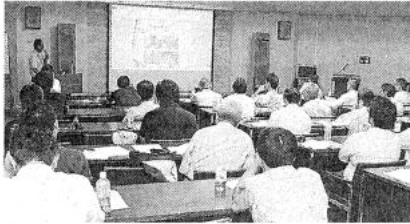


会員同士レベルアップへ事例発表

福井県コンクリート診断士会 技術交流会開く⑤

第95回

福井県コンクリート診断士会（山川博樹会長）の18年度技術交流



会は7月27日、鯖江市桜町の響陽会館で開催され、写真、会員7人

による診断業務に関する事例発表を受け、参加会員約65人で活発に質疑応答も行った。

山川会長は、会員同士で診断能力の全体的なレベルアップを図る意義を交え冒頭挨拶。発表時間は約30分でテーマは各自が自主的に設定し、経験的に培っ

た知識や技術を披露。研修会の開催はこれで累計95回となった。発表者一人目は朝井氏で、インフラの維持管理において写真データを活用する重要性を強調した。その上で開発が進む360度画像が有効と提案。質問にも応え「近接目視の代用にはまだ至らないが、補助的な使い方全体を把握するにはふさわしい」と話した。



県丹南土木事務所の朝井範仁氏
インフラメンテナンスにおける
360度画像利活用の取り組み事例

同画像のデータ公開サービスはWeb環境さえあれば、インフラの簡易的な台帳として活用可能。オープンデータとしても利用価値が高い。



デルタコンサルタントの安久裕一氏
コンクリート橋の調査事例

15年のPC鋼線破断試験では確認されなかったが今回（漏洩磁束法）は確認された。架橋環境が厳しい（海岸に近い）橋梁については定期的に調査を行っていくことが必要と感じた。



セキサンピーシーの金谷政宣氏
コンクリート二次製品の塩害対策事例

耐食性の高いコンクリートの材料や補強材料が開発されると、新素材に適応した診断や補修・補強技術も必要になる。材料供給面で問題がなければ全国的に普及がし易い。

デルタコンサルタン
トの安久氏は、築45年

セキサンピーシーの

鋼材腐食に対する比較
などから今後の材料研
究の進展に期待した。

の単純PCポストテン
ションT桁橋（延長30
m）を取り上げ、海岸
に近く、厳しい環境が
原因の破断状況などを
説明し「今後も継続的
な調査が欠かせない」
と実感を込めた。

金谷氏は、コンクリー
ト二次製品の塩害対策
を紹介。ステンレス鉄
筋の特長点から注意点
（電食、鋭敏化、亜鉛
脆化）までを指摘し、